

第15回 金融教育に関する 小論文・実践報告コンクール表彰式

2018年12月26日、金融広報中央委員会は「第15回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」の表彰式を都内会場にて開催しました。このコンクールは、毎年、全国の教育関係者の方々から金融教育に関する実践報告、研究結果、提言などを広く募集し、優秀な作品を表彰する催しです。本レポートでは、受賞作品の要旨および受賞者の方々からうかがった作品制作のきっかけや成果、今後の抱負などをご紹介します。

※ここで紹介した特賞・優秀賞・推奨実践事例賞の各受賞作品の全文は、「知るぽるとWEBサイト」でご覧いただけます。
https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2018/



前列左より：半沢一樹氏、小松純氏、郡司直孝氏、小宅ななみ氏、弓矢伸一氏、石井純子氏

審査員代表による講評



大杉 昭英氏
教職員支援機構
次世代教育推進
センター長

今回のコンクールでは、2018年および2017年3月末に告示された新学習指導要領に明記された「現代的な課題に対応するための資質・能力」や「教科横断的な学習の重視」、「社会に開かれた教育課程」といった観点が金融教育と一致することに着目した野心的な取り組みを報告した力強い作品が多数寄せられました。

特賞、優秀賞、推奨実践事例賞を受賞された皆さまの優れた作品が広く取り上げられ、金融教育への機運がより一層高まることを願っています。

開催挨拶



吉國 眞一
金融広報中央委員会
会長

コンクールの狙いの1点目は、金融教育の発展に資する優秀な人材を発掘・紹介することです。2点目は、金融教育の必要性をより多くの方々にご認識いただくとともに、教育関係者等に実践例としてご活用いただくことです。今回の入賞作品では、金融教育のありかたについて、多角的に考察し体系を構築しようとする取り組みや、現代社会の課題を取り上げ、新たな視点で工夫を凝らした金融教育の実践の報告がみられ、金融教育が質・量両面で着実に発展していることを確認しました。

受賞者の皆さまには、今後とも金融教育の一層の広がりに向けてご尽力いただきますようお願いいたします。

■コンクールの概要 & 受賞結果

主催	金融広報中央委員会
後援	金融庁、文部科学省、日本銀行
応募資格	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校教員、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官等研究者
今回の受賞結果	<p><小論文部門・実践報告部門></p> <p>特賞：1編（賞状/賞金30万円）</p> <p>優秀賞：3編（賞状/賞金10万円）</p> <p>奨励賞：6編（賞状/賞金3万円）</p> <p><研究校部門></p> <p>推奨実践事例賞：2編（賞状/賞金5万円）</p>

■第15回 最終審査員（敬称略）



大杉 昭英	教職員支援機構次世代教育推進センター長
神山 久美	山梨大学大学院准教授
河野 公子	聖徳大学大学院講師
松島 斉	東京大学大学院教授
向山 行雄	敬愛大学教授・教職センター長
内藤 誠吾	NHK制作局第1制作センター 経済・社会情報番組部長
中川 忍	日本銀行情報サービス局長
吉國 眞一	金融広報中央委員会会長



特賞



郡司 直孝氏

北海道
北海道教育大学附属函館中学校教諭

受賞作品

教科等横断的な金融教育を実現するカリキュラム編成のための一考察
～「金融教育で育成を目指す資質・能力」の設定とカリキュラム表作成の試み～

作品概要

本論文は、次期学習指導要領の「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」などを手がかりとして、「金融教育で育成を目指す資質・能力」を設定し、カリキュラム編成のための具体的な手立てを示すことを目的としている。筆者が考える金融教育の課題を克服すべく「教科等横断的な金融教育」の実現に向けて、『「金融教育で育成を目指す資質・能力」育成のためのカリキュラム表（第1案）』を提案した。

金融教育の資質・能力を育むために 教科等横断的な金融教育が必要

本論文では、過去の本コンクールや金融広報中央委員会の取り組みの課題を克服するために「教科等横断的な金融教育」を実現する手立てを提案しました。この提案を特賞として評価していただいたことは、これからの金融教育の方向性として「教科等横断」の視座が必要であるという強いメッセージであると感じています。

いわゆる「〇〇教育」が展開されるにつき、多くが学習内容に基づいた教科の連携となっている現状がありますが、それでは、「〇〇教育」に関係のある教科だけの、内容だけの「横断」になってしまいます。教科等横断というからには、できるならばすべての教科等が金融教育で育成を目指す資質・能力にアプローチできる手立てが開発されなくてはならないと考えていました。このための考え方として、中央教育審議会答申と新学習指導要領で「資質・能力」が示され、本校では資質・能力を教科等横断的に育成するための方策を研究し、執筆しました。

具体的な授業実践を蓄積し カリキュラム改善を目指す

論文では、「金融教育で育成を目指す資質・能力」を「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・

人間性等」という二つの領域に整理して、カリキュラムを編成しました。この資質・能力のなかで、私が中学生に最も学んでほしいことは、「思考力、判断力、表現力等」のうち、「問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ることを通して、課題解決に向けて合理的、主体的に考える」ことです。この資質・能力は、汎用的な力であり、何より他者との関わりの中で求められる大切な力です。これからは、経験や価値観が異なる他者と自分との間で合意を形成し、課題を解決することがますます求められていくと思います。

カリキュラム表を提案するにあたって、新学習指導要領の各教科の内容を整理しました。そして、各教科の内容はそれぞれの資質・能力の育成に向けてることができるものなのか、他教科の教員と話し合い、意見をいただいたのですが、実技系の保健体育科が「知識、技能」にも「思考力、判断力、表現力等」にもコミットできる部分が数多くあった、ということに驚きました。

論文執筆の成果として、ほんの少しかもしれませんが、金融教育を教科等横断的に取り組んでいくための考え方や手立てを示せたのではないかと思っています。同時に、ほかの「〇〇教育」を展開するうえでも参考にしていただけの部分があるのではないかと考えています。

今回ご提案したカリキュラム表は、実

践が伴っていません。今後は、各教科等で取り組まれる具体的な授業実践を蓄積して、学校全体での金融教育の具体例を提案できるよう取り組んでいきたいです。

●審査員の講評

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力に注目して、金融教育全体のカリキュラムの枠組みをつくらうとした点が野心的で前向き、教科横断的な学習を重視する点は新学習指導要領の趣旨と合致しており金融教育を進めるうえで効果的、として高く評価されました。



優秀賞

受賞作品

電子マネーに焦点を当てた金銭管理教育
〜中学校家庭科での授業提案に向けて〜

作品概要

中学校技術・家庭科（家庭分野）の新学習指導要領解説では、キャッシュレス化に対応した金銭管理教育の必要性が明示された。筆者は、中学生を対象に電子マネーに関するアンケートを実施・分析し、中学1年生からの電子マネーの金銭管理教育や保護者との連携の必要性を述べている。



小宅 ななみ氏
大阪府
大阪教育大学4年

中学生の実態を調査し
現実に即した教育を提案

「家庭教育は日常生活の変化に敏感に適応しなければならぬ」と大学で教わり、お金の著しい変化に目を向け、新しい金融教育を提案したいと考えました。子どもたちへのアンケート調査によって、電子マネーの使用等の現状や、家庭環境と金銭管理力の関係性が明らかになったことが大きな成果です。

今後は調査結果を基に、教材作成および授業提案を行いたいと思います。お金に関する環境が変わっていかなく、子どもたちに最も

審査員の講評

新学習指導要領で新たに導入された中学校技術・家庭科における金銭管理の学習内容を提案している、電子マネーに関する指導という現代的で難しいジャンルに挑戦していると高く評価されました。

優秀賞

受賞作品

児童によるミニ・ミュンヘン活動における金融教育
〜ろりぼっぶクラブのミニ・ミュンヘン計画の実践報告〜

作品概要

筆者の学園では、児童保育の小学生を対象に、遊びを仕事としてとらえ、仮想通貨（模擬通貨）「ポップ」を稼ぎ、学園内のさまざまな店で使える「ミニ・ミュンヘン活動」を実施。活動を通じ、子どもたちが社会の仕組みやお金の流れ、仕事の楽しさを学んでいることが報告されている。



半沢 一樹氏
宮城県
ろりぼっぶ学園
ろりぼっぶクラブ支援員・幼稚園教諭

お金を稼ぎ、使う体験で
大きく成長する子どもたち

子どもたちの「生きる力」を育み、自主性や主体性を持った子になってほしいと思ひ、活動に取り組みできました。子どもたちの「自ら考え、決定し、自ら行動し、周囲の人と協力しながら、達成していく」という過程が、自信へとつながったように思います。ふだんから主体的に挑戦し、リーダーシップやコミュニケーション能力の向上も見られました。また、自ら稼いだ仮想通貨（模擬通貨）で購入する経験を通じて、物を大事にする

審査員の講評

児童クラブや幼稚園での模擬通貨を使った経済活動を展開することは非常に有意義であり、実践の魅力あふれる内容と成果が報告されている、また、働く女性が増えるなかで児童クラブでの取り組みは非常に重要であると評価されました。

優秀賞

受賞作品

人生100年時代をどのように生きるのか、主体的なキャリアデザインの描き方
〜「LIFE SHIFT」を題材とした金融経済教育の実践〜

作品概要

書籍「LIFE SHIFT」を題材に、金融経済教育とキャリア教育の観点から、海外と日本の雇用・社会保障制度を比較する授業を実施。「日本型雇用慣行の現状と課題」「海外の労働環境との比較」「人生100年時代の生き方」の三つに着目し、日本でのライフ・シフトの可能性を考察した。



小松 純氏
東京都
東京都立国際高等学校教諭

キャリアを主体的に考えさせ
人生の指標や目的意識を得る

生徒たちの発表や論述が、メディアなどの情報をそのまま使ってしまうなど、自ら分析・考察する力に課題を感じていました。学校で学ぶ知識とメディアで発信されるような社会的現象を結びつける授業を行うことで、この課題が解決し、さらに生徒の生きる力の育成につながると考えています。

授業実践終了後、「LIFE SHIFT」を借りる生徒が増えたなど、生徒の興味や関心に響いたようです。「人生の設計」というキャリア

審査員の講評

人生100年時代と働き方改革という二つの重要な現代的課題を取り上げ、高校生に日本と海外の比較を交えつつ、社会保障、労働問題を学ばせる視点が非常によいとして評価されました。

研究校部門

推奨実践事例賞



弓矢 伸一氏
三重県
三重県立四日市商業高等学校教諭

受賞作品

グローバルな人材を育てる経済学教育

作品概要

筆者の高校で経済教育「ビジネス経済」が新たに導入され、教材探しから指導方法の模索まで取り組んだ経緯をまとめたもの。経済史や経済理論を教えるために、「現代社会」の教科書やイラストを用いた自主教材を使用。ほかにも、大学教授の講演会、新聞や経済誌による学習などの取り組みが報告された。

教材探しから指導方法まで

ゼロから出発した

経済学教育

2015年度、具体的な経済事象を経済理論と関連づけて考察するための能力と態度を育む「ビジネス経済」が商業科の新科目になり、経済学教育に取り組んできました。指導法や教材はゼロから開発し、アダム・スミス、マルクス、ケインズの3人の経済理論を分かりやすくイラストで説明した教材を自主制作したり、新聞やインターネットを活用した学習などを実践しました。

こうした金融経済教育の

●審査員の講評

学校を挙げて取り組んでいる点や社会の各方面の取り組みを利用して成果を上げている点などが高く評価されました。

研究校部門

推奨実践事例賞



石井 純子氏
香川県
高松市立林小学校教諭

受賞作品

夢や希望をもち、自分らしい生き方を実践していく児童の育成

作品概要

子どもたちが将来へ進み出す原動力を育成するため、金銭教育を「未来をよりよく生きる力を育む教育」と幅広い概念でとらえ、教科指導だけでなく学校教育全体の活動において実践と研究を行った。その結果、子どもたちが学力面の成長だけでなく、生きる力を培ったことを報告している。

子どもたちの変化を生んだ

授業の見直しと実践

2016年度の県の調査で、「将来の夢や目標を持つている」と答えた本校児童の割合が県平均より低かったため、キャリア教育の視点でも授業づくりを見直した。2年間にわたり実践しました。

例えば、5年生の家庭科

でのみそ汁作りでは、「買い物」と「調理」を一連の流れで学習することで、「自分の身近なこと」ととらえるようになりまし。また、栄養教諭と連携して栄養バランスを学び、給食を残さず食べていると答えた生徒

●審査員の講評

研究校としての全学年全教科における取り組みのなかで、担当の家庭科における実践を丁寧で紹介している点が高く評価されました。

奨励賞 受賞者&作品 (敬称略)

【小論文部門】

■企業のコンプライアンスから考える

金融教育の視点―企業を学ぶ意味

一ノ瀬 藤明 (栃木県 佐野日本大学 中等教育学校教諭)

■金融経済教育およびLearningがもたらす

国民とのコミュニケーションの改善

―学生へのアンケート調査に基づく検証―

北野 友士 (大阪府 桃山学院大学准教授)

西尾 圭一郎 (愛知県 愛知教育大学准教授)

松浦 義昭 (石川県 金沢大学専任講師)

小山内 幸治 (滋賀県 滋賀短期大学教授)

■大学生を対象とする金利に関する金融教育

―数学的モデリングの過程を活用して―

太田 直樹 (広島県 福山市立大学講師)

【実践報告部門】

■お金を活かし、社会とつながる公民学習

―ICTを活用したシミュレーション学習を通して―

南波 純 (山形県 鶴岡市立鶴岡第一中学校教諭)

■持続可能な税と社会保障制度を考える主権者教育

―税務署と連携した模擬選挙の実践報告―

小島 江津子 (千葉県 千葉県立白井高等学校教諭)

■先生・児童・講師、皆が豊かになる金融教育

―「ありがとう」が回って世の中がよくなっていく

―先生・児童・講師、皆が豊かになる金融教育―

竹森 順子 (兵庫県 三田市立広野小学校教諭)

竹内 かつり (兵庫県 芦屋市立三ツツ子小学校教諭)

次回の「第16回金融教育に関する小論文実践報告コンクール」は、2019年6月ごろ募集開始予定です。